

応募者名	徳島県	分野	医療、介護、健康
取組名称	地域の暮らしを支える徳島県の遠隔医療	取組地域	徳島県海部地域

概要	
取組内容	医師及び医療機関の不足により、地域における医療格差が生じているところ、ローカル5 Gや通信キャリアの5 G、Starlinkによる衛星通信といった複数の情報通信手段を柔軟に活用した医療DXを推進しており、様々な遠隔医療の実証又は実装を通じて、県民への適切な医療の提供に取り組んでいる。 具体的にはローカル5 Gの超高速・超低遅延という特性を活かした「超高精細映像による遠隔専門医外来診療」、屋外でも使用できるキャリアの5 Gを用いた「救急車と病院間の映像共有」や「スマホアプリによる医師間連携」、携帯電話の通じない山間部でも繋がるStarlinkを用いた「医療MaaSの訪問診療」などを行っている。
実績や効果	県立海部病院では、県立中央病院との間で年間約240件の遠隔外来診療を行っており、地域の患者に専門医による診療の機会を提供している。また、スマホアプリにより当直医がいつでも専門医に相談できるようになったことで、救急搬送の受入数が約13%増加するとともに、脳卒中患者の予後が都市部病院と同レベルに改善した。
取組全体を通じて訴えたいポイント	過疎・高齢化の進む地域において、誰もがいづれ直面する医療における課題に対し、現場で働く医師と行政が一体となって、デジタルの力を駆使して課題解決に向けた取り組みを進めており、地域医療の質を向上させている。遠隔医療は医師の働き方改革や負担軽減、若手医師の技術向上にも寄与しており、多くの医師の高い評価を得ている。

詳細	
地域の課題解決・魅力向上	地域で暮らす人にとって近くに病院がないことは、日々の暮らしの不安や負担に直結する大きな問題となっている。 徳島県では早くから遠隔医療の有効性に着目し、誰もが暮らしたい場所で安心して暮らすことのできる地域の実現に向け、全国初の5 G遠隔診療の実証を行うなど、先進的な取り組みに挑戦している。
独自性・先進性	徳島県は、ローカル5 G等の通信手段を駆使し、外来診療、救急医療、訪問診療など様々な遠隔医療を行うことで、患者一人一人に適切な医療を提供できるよう努めており、このように多様な遠隔医療の取り組みを進めている自治体は他にないものと認識している。国の先進的な実証にも積極的に参加し、医師等から高い評価を得ている。
持続性・発展性	約10年前に海部地域で救急に係る遠隔医療の取り組みが始まり、脳卒中患者の予後改善等の実績を上げながら、5 Gの開始に合わせて外来診療などに取り組みを拡大してきた。 令和5年度には県内の複数医療機関の医師が参加する遠隔医療推進検討チームが設置され、新たな取り組みに向けた検討を、医師が主体となって積極的に行っている。
他地域への横展開	徳島県では遠隔医療に係る様々な取り組みを並行して行っているが、それぞれの取り組みは事業者が提供するサービスを利用することで容易にシステム面の整備が可能である。課題となるのは、医療スタッフの理解と、連携する組織間の体制及びルールづくりと認識しており、本県の取り組みを参考にしていただけるよう周知広報に努めて参りたい。
取組を進めるうえで苦勞した点	遠隔医療を実践するに当たっては、複数の病院の連携が必要であるため、各病院の医師及び事務局との協議や調整、ルール策定に時間を掛ける必要があった。最初は医療スタッフがシステムの使用方法で戸惑ったり、技術的な問題で十分な通信速度・映像の画質が発揮できないなどの問題があり、常に試行錯誤しながらの取り組みだった。
取組の成果を上げることが出来た秘訣・工夫	医療の現場の第一線で活躍する医師が、常に患者の声を聴きながら取り組みを進め、また他の医師の意見や他県の事例も参考にし、より良い取り組みへとブラッシュアップを続けてきたことで、一連の取り組みの中でOODAループが自然と実践できており、その積み重ねが今日の成果に繋がったと考えている。
今後の展望	地域における医療の質の向上に向け、現在の取り組みを着実に継続しながら、遠隔医療推進検討チームでの協議を通じて、県南部において先駆的に取り組まれている遠隔医療の全県展開や、他県のベストプラクティスを参考にした新たなソリューションの導入などの検討を進めていく。